

VOICES from the ARCTIC

Vol.37 / 2024.5.1

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局



ロシアの北極LNG事業、 出荷開始は3月以降＝コメル サント紙



ロシア紙コメルサントは8日、天然ガス大手ノバテクが主導する北極域の液化天然ガス（LNG）事業「北極LNG 2」からの出荷開始が3月より早まることはないとの関係者の話を伝えた。

記事参照：

<https://jp.reuters.com/business/QHNLCT32G BJNNG3LZGQ63BUL5A-2024-02-09/> (2024.2.9/REUTERS)



提供：iStock

北極付近の寒気放出 ニューヨークで積雪 日本は 何故こんなに暖かい？ 今後は寒さ戻る



北極付近に蓄積していた寒気が、中緯度帯に放出しています。負の北極振動と呼ばれる現象です。日本にも寒波をもたらすことのある現象ですが、今回、日本ではこの現象とは真逆に、季節先取りの暖かさになっています。

記事参照：

https://tenki.jp/forecaster/k_shiraishi/2024/02/18/27530.html (2024.2.18/tenki.jp)



提供：iStock

北欧の小都市で広がる 新冷戦…米中口に続き韓国も 参戦態勢

北極域諸国に続き、韓国も「北極外交」の場で存在感を高めている。ノルウェーのエイデ外相は先月30日の北極フロンティア会合での記者会見で取材陣に「北極の持続可能な開発に向けては加盟国だけでなく韓国と日本などオブザーバー諸国の役割が重要だ」と強調した。韓国は2013年に北極評議会の常任オブザーバーになり、北極開発と関連したすべての会議に参加して意見を表明できるようになった。

記事参照：

<https://japanese.joins.com/JArticle/314785>
(2024.2.7/中央日報)



提供：iStock

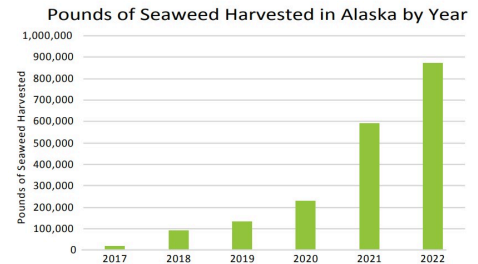
アラスカの養殖業が拡大、 近年大幅な生産増と報告書



米国海洋大気庁が金曜日に発表した新しい現状報告書によると、アラスカの養殖業は世界的に見れば小規模だが、州内の養殖貝類と海藻の生産量は近年大幅に増加している。最近の分析によれば、世界の海藻市場は100億ドル近い価値がある。世界銀行の分析では、生産は中国をはじめとするアジア諸国が圧倒的に多く、養殖海藻は食用だけでなく、さまざまな工業用や医薬品としても利用されている。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/alaskas-mariculture-industry-expands-with-big-production-increases-in-recent-years-report-says/> (2024.2.27/Arctic Today)



海藻の収穫量の伸びは、2024年2月23日に発行されたNOAA FisheriesのState of Alaska Aquaculture Reportのこのグラフに示されている。(Graph provided by NOAA Fisheries' Alaska Region Aquaculture Program)

グリーンランド初の安全保障戦略、北極圏が過熱する中、西を見据える

グリーンランド初の外交・防衛・安全保障戦略が2月21日に発表された。グリーンランドの安全保障戦略は、北米のパートナーとの協力強化に重点を置いている。27ページにわたるこの戦略は、ロシアによるウクライナ侵攻と北極域での軍事力増強の継続によってもたらされた、北極域におけるロシアとの潜在的な軍拡競争に対するグリーンランドの懸念を示唆している。

記事参照：

<https://www.arctictoday.com/greenland-looks-west-as-the-arctic-heats-up/>
(2024.2.27/Arctic Today)



西側諸国とロシアの間で緊張が高まる中、ますます中心的な役割を担うようになっていくヌークの全景。(KaareSorensen, Creative Commons)

米戦略爆撃機がスウェーデン北部に配備

金曜日、米国のB-1Bランサー戦略爆撃機2機が、スウェーデンのノルボッテン航空団

(F21)の主要基地であるルレオ・カラックス空軍基地に配備のため到着した。この空軍基地は、二国間の防衛協力に関する両国の新しい協定において、スウェーデンとアメリカの軍事合意地域に選ばれた。スウェーデン国防総省によれば、スウェーデン議会での協定の承認と発効は2024年末までに可能となる。記事参照：<https://www.arctictoday.com/us-strategic-bombers-deployed-in-northern-sweden/> (2024.2.28/Arctic Today)



米軍のB-1Bランサー戦略爆撃機2機が現在、スウェーデン最北のノルボッテン県にあるルレオ・カラックス空軍基地から爆撃機任務部隊の任務を遂行している。「BTF作戦は、米国の指導者たちに、同盟国やパートナーを保証する戦略的オプションを提供すると同時に、世界中で潜在的な敵の侵略を抑制する」と在欧米空軍は述べている。(Photo: Jesper Sundström/Swedish

米英の最新制裁措置、ロシアの北極LNG 2プロジェクトを狙い撃ち



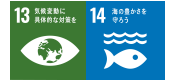
米国と英国は、ロシアと韓国における船舶建造とノヴァテックのベロカメンカ造船所を対象とした、ロシアの北極LNG 2プロジェクトに対する更なる制裁を発表した。過去6ヶ月間に3回行われた制裁措置の影響により、同プロジェクトからの初出荷が遅れ続けている。記事参照：

<https://www.arctictoday.com/latest-round-of-us-and-uk-sanctions-takes-aim-at-russias-arctic-lng-2-project/> (2024.2.26/Arctic Today)



北極LNG2、ベロカメンカ組立ヤード、ズヴェズダ造船所とハンファ造船所の位置を示す地図。ヤマルLNGプロジェクトも示されている。(Source: Author's own work)

北極域研究船の船名決定について



国立研究開発法人海洋研究開発機構（以下「JAMSTEC」）は、現在建造中の北極域研究船（以下「本船」）の船名を「みらいII（ツー）」に決定いたしました。船名は、一般公募の結果や外部有識者のご意見を参考に検討した結果、本船が、JAMSTECが現在運用する海洋地球研究船「みらい」から北極域を含む調査・観測活動を引き継ぐ予定であること、これまで「みらい」で培われた海洋地球観測に係る国際的な貢献・認知度からの継続性、さらには、本船が、北極域、ひいては地球環境全体の「未来」への貢献を目指すことから決定したものです。「II」によって、国際研究プラットフォームといった新たなコンセプトや砕氷能力などを持つ本船と区別しています。なお、今般JAMSTECでは、老朽化等に鑑み、2025年度をもって海洋地球研究船「みらい」の運用停止を決定いたしました。「みらい」を引き継ぐ本船が円滑に調査・観測活動を開始できるよう、2026年秋頃の完工・引渡しを目指して建造を進めて参ります。記事参照：北極域研究船の船名決定について | JAMSTEC | 海洋研究開発機構 | ジャムステック / (2024.2.22/JAMSTEC)



北極域研究船「みらいII（ツー）」完成イメージ
提供：JAMSTEC

生態学：飢餓の危険にさらされているホッキョクグマ



頂点捕食者であるホッキョクグマは、食餌や狩猟、採餌行動を適応させる能力を持っているにもかかわらず、北極海の氷がない時期には岸が上がって食物を探さなければならず、飢餓の危険にさらされている可能性があることを報告する論文が、Nature Communicationsに掲載された。今回の知見は、20頭のホッキョクグマのデータに基づいたもので、ホッキョクグマが気候変動による無氷期の長期化に対処するためにどのように苦勞しているかを洞察するための新たな手掛かりとなる。
 記事参照：<https://www.natureasia.com/ja-jp/research/highlight/14792>
 (2024.2.14/nature asia)

植村直己さん、未公開の写真発見 北極圏で犬ぞり訓練

1984年2月、北米大陸最高峰マッキンリー（現デナリ）で行方不明になった冒険家、植村直己さんが約50年前、北極圏のグリーンランドで先住民イヌイットと犬ぞり訓練をしていた時の未公開写真6枚が見つかった。今年2月で植村さんが行方不明になってから40年となる。
 記事参照：植村直己さん、未公開の写真発見 北極圏で犬ぞり訓練 - 日本経済新聞 (nikkei.com)/ (2024.2.3/日本経済新聞)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.37は、2024年2月のニュースを掲載しています。
 今月は政治関連のニュースが多かったので、Vol.36とVol.37の2回に分けて編集しています。グリーンランド初の安全保障戦略が注目されますが、フィンランド、スウェーデンのNATO加盟の下で安全保障環境の変化も進みつつあります。日本北極域研究船「みらいII」が今後どのような「未来」を目撃するのか気になるところです。（大西）

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
 E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト：<https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

